はじめに

文化史の学習が重荷になっている受験生が，かなり多いように見うけられる。無理もない。たしかに，他の分野にくらべて文化史の事項は多くなっている。そして，教科書はむやみに暗記を強要するかのように，ただ語句を羅列しているだけといえるようだ。

さらにグチをいうと，授業では先生が「君たち，文化史は自分で勉強してくれよ……」と，逃げだしてしまう場合が多い。実は，かく申す私も授業時間が足らなくなると，まず文化史の部分をカットして，「そのうちやるからね……」といいながら，約束を果たさなかったケースがしばしばあった。

いささか言い訳じみて申しわけないが，文化史の場合には，高尚な説明をながながと聞くより，とにかく必要事項を覚え込み，適切な問題にアタックして，自分で基礎力を身につけること，それがまず先決のように思える。そのうえで，もう一度教科書を読み通し，授業を聞くことが学力アップにつながるようだ。

ところが，文化史の「必要事項」は何か，「適切な問題」とはどのようなものか，それがわからない。自分で勉強しろといわれても，それが具体的にわからない限り，やりようがないわけである。

そこで，文化史学習入門ということで，まず「問題集」を作った。「必要事項」はその中に盛り込むのが効果的と判断したからである。問題演習の形をとっているので，文化史事項があちらこちらにくり返し登場することがある。つまり，重要だから何度も出てくるということである。

本書の問題はすべて，過去のセンター試験（一部，共通１次試験を含む）のものである。もちろん，センター試験での高得点獲得を目指す諸君に適切な問題集である。同時に，大学入試全般の基礎学力強化にふさわしいものだから，私大対策としても十分に対応できる。

最後にもう一度くりかえしてアドバイスするが，文化史学習の心得第一条は，たくさん暗記しようとあせらず，必要なことを確実にマスターすることである。そして第二条は，二度三度と反復練習すること。一度でマスターしようとしても，それはムリです。諸君は，本書を少なくとも二回は学習してもらいたい。健闘を祈る！

著者記す

目　　次

はじめに

第１章　原始・古代…… 7

第２章　中　世……37

第３章　近　世……55

第４章　近現代……81

第５章　総　合 ……103

1－1　原始・古代の遺物・遺跡・風習

(1) **解　答**　問1　④　問2　②　問3　③　問4　①　問5　②

問1

① 石室は古墳の構造であり，縄文時代のものではない。

② 洞穴埋葬は縄文時代以前に多い。弥生時代の例ではない。

③ 抱石葬は縄文時代の屈葬に見られる特例である。

④ 正しい。日本における火葬の最初は，700年に道昭が火葬されてから貴族層にひろまったといわれ，8世紀以降に普及した。

問2　② 正しい。朝鮮半島南部の影響が大きい埋葬法で，縄文晩期～弥生中期の九州北部に多く見られる墓制である。

①は縄文時代，③は古墳時代，④は弥生時代以降に見られる一般的な埋葬方式である。

問3　アは縄文時代中期に北陸地方を中心に発達した火炎土器である。③が縄文時代の説明として正しい。①と④は弥生時代の説明であり，②は旧石器時代のこと。

問4　イは旧石器時代の打製石斧とナイフ形石器であり，①が該当する。②は縄文時代のこと，③は弥生時代，④は古墳時代中期に属するものである。

問5　ウは古墳時代の子持ち須恵器で，②の時代に該当する。①・③・④はいずれも弥生時代に属する。

(2) **解　答**　問1　④　問2　①　問3　⑤

問1

① 青銅器はおもに祭器であって，武器ではない。銅鐸は武器ではない。

② 貝塚の出現は縄文時代のことである。

③ 弥生時代中期には，すでに青森県まで稲作がひろまっている。

④ 正しい。大型の墳丘墓も作られていた。

問2

② 旧石器時代の遺跡である。

③ 縄文時代の代表的遺跡で，近年注目され，話題になっている。

④ 弥生時代の遺跡ではあるが，環濠や高地性集落は見られない。

問3

Ⅰ―大宰府・水城は筑紫にあり，bが該当する。